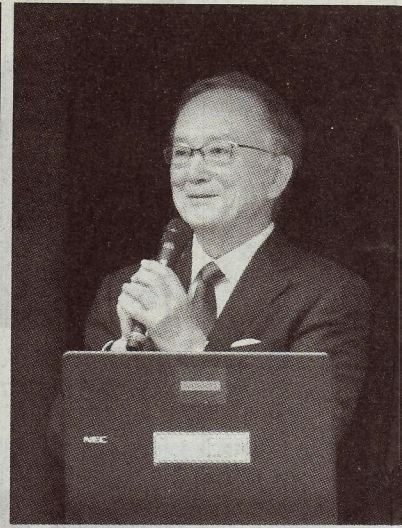




水野家と新宮城下町 シンポジウム「水野家入部と新宮の発展」



パネルディスカッションの様子=9日、新宮市役所別館



水野勝之さん

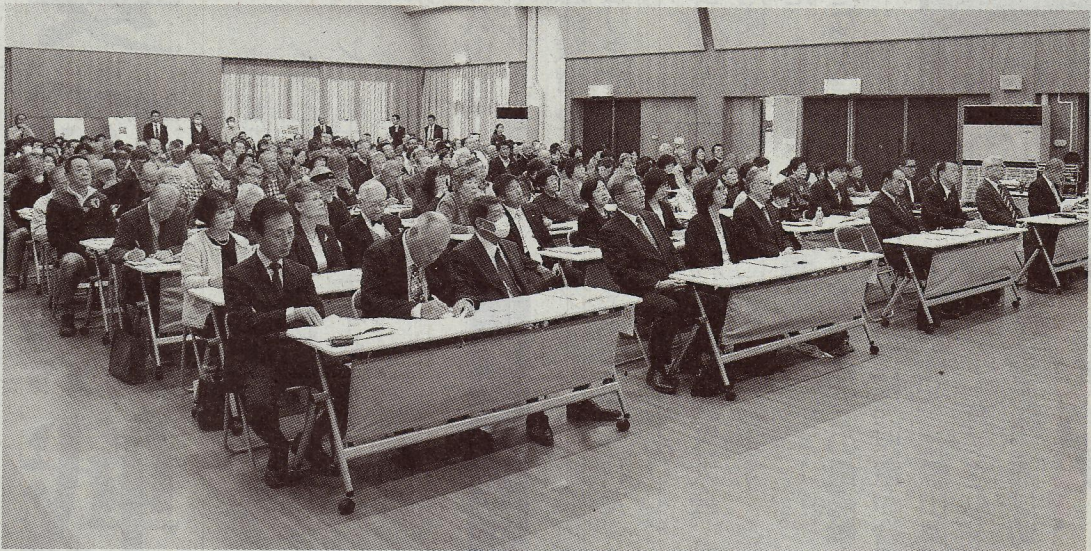


徳川宜子さん

【1面関連】水野家入部400年記念事業「水野家と新宮城下町」において、9日に行われたシンポジウム「水野家入部と新宮の発展」では、紀州徳川家第19代当主で建築家の徳川宜子さんと、水野宗家20代当主で（一社）霞会館常務理事、（公財）徳川記念財団理事の水野勝之さんが基調講演をした。徳川さんは「紀州徳川家の記憶」と題して講演。紀州藩として明治の廃藩置県までの253年、その後の148年の紀州徳川家の歴史の記憶をたどった。

徳川さんは、徳川家康の十男である頼宣が1619（元和元）年に和歌山城に入城したことで紀州徳川家の歴史が始まったなどと解説。頼宣に関して「藩主としての頼宣公は優秀な政治家だった。紀州人の基礎を築いた人では」と紹介。入国前に元新宮領主だった浅野家に対する不満や実情について調査させており「調査に基づいて、農民に対して威圧的な政治と、土着の有力者を懐柔するような施策を行なっている」と説明した。

領民に対し、▽親孝行をする▽法律を守る▽へりくだっておごらない▽引き受けた職務は全うする▽正直に生きる―を柱とした「父母状」を出した。徳川さんは「250年間、施策、教育の基本方針として受け継がれてきた。紀州人の精神性を



約400人が来場した

築いたものでは」と述べた。

近代における紀州徳川家について、自身が大きく影響を受けたとして、日本図書館協会総裁であり史跡名勝天然記念物保存協会会長の15代・頼倫と、ユネスコ国会議員連盟会長、全日本音楽協会会長の16代・頼貞について紹介した。徳川さんは「文化財や景観など物理的なものと一緒に、気風や気質といった土地に根付いた精神性が受け継がれている」。建築家としての立場から「新宮出身の西村伊作創設の文化学院で学び、新宮を身近に感じている。新宮市の歴史、文化的な財産を残していく」という活動を応援させていきたい」と結んだ。

水野さんは「新宮市と水野家の関わり」について講演。「自分の家がこういふ家だとも意識しないで育った」と振り返った。水野さんの祖父・水野直氏は幼少の頃、新宮水野家から結城水野家へ養子に入っている。

水野さんは水野家と松平家の関係性について言及。水野忠政の娘・於大と松平広忠の間に生まれたのが徳川家康であり、水野一族が徳川幕府の中核的存在となるのも、この結婚によるものが大きいと話した。

家康の側近であった、忠政の孫・重仲は、その力量を買われ、紀州藩初代藩主・徳川頼宣の後見役となり新宮に3万5千石として入部。新宮水野家初代当主となる。「江戸期の新宮領は、熊野木材や備長炭の生産、熊野詣での拠点として経済的に安定していたのでは」。新宮領の経済的背景を基盤に、9代・忠央は政治的に活躍。南紀派として14代将軍・家茂を実現する。教育、文化面も多くの功績を残しているなどと紹介した。

10代・忠幹は、幕末の長州出兵などに尽力した時代の流れにあらがえず、明治を迎え、版籍奉還により新宮藩知事となったが、廃藩置県に伴い免官。後継者の忠直は、1902（明治35）年に陸軍歩兵中尉として所屬していた歩兵第5連隊の八甲田山雪中行軍に参加し遭難死を遂げている。

■歴史を活かしたまちづくり

「歴史を活かしたまちづくり」と題したパネルディスカッションには、徳川さん、新宮水野家末裔のモニカ・水野・ペロイターさん、水野家入部前に新宮領主であった浅野家の移封先である広島県三原市の天満祥典市長、水野家交流自治体である愛知県刈谷市の川口孝嗣副市長、そして新宮市の田岡実千年市長が参加。コーディネーターを水野勝之さんが務めた。

モニカさんはドイツと日本の関係について「価値観と気質が似ている。共通点を考えれば、交流が今日まで発展してきたことは自然なこと。今後ますますの展開が楽しみです」。徳川さんは「新宮市では西村伊作や旧チャップマン邸を保存しているが、価値観や精神性などの思いを受け継いでいくことに気付くことが重要。歴史や文化が感じられるからこそ保存されていく価値がある」と述べた。

田岡市長は「新宮市は西村伊作や佐藤春夫、東くめ、中上健次など多くの文化人を輩出している。水野家が江戸詰めの家老であったため、江戸の華やかな文化を呼び込んでくれたことが素地をつくったかもしれない」。新宮城復元事業については「現在有力な情報はないが、懸賞事業を国内外に広く発信することは、新宮城跡や水野家墓所について多くの人に興味を持ってもらえる機会だとも思っている」と話した。

題目に関してモニカさんは「年中の行事に新宮城関連の行事があれば素晴らしい」と話し「新宮に来るたびにこの地の素晴らしさを見出している。ドイツに帰るごとにたくさんの人にそれを紹介できるのは大きな喜び」。徳川さんは「風土や土地の特性、本質を見極めることが大事」とコメントした。

川口・刈谷市副市長は「先人の思いや努力がまちをつくってきたことを伝えていくのが大切。歴史を見ることで現在が見えてくるし、現在を語ることは未来を語ることにつながる」。天満・三原市長は「人口減少の中、文化と歴史、伝統芸能を活用していくことが大事。連携し、新宮市の人が元気で発展していくことを応援したい。歴史と史跡を生かすことは効果的。大いに新宮市も役に立てて」。

田岡市長は、「新宮市には世界遺産や国史跡指定、歴史的文化的資産が多く存在する。それぞれがストーリーを持ったかけがえのない観光資源で全世界に自慢できるもの」。官民が丸となって盛り上げていくことが重要と述べ、「次の世代につなぎ、守り育てていく人材の育成も必要」と述べた。

水野さんは「かつて城は軍事拠点だった。平和な時代が続くと、城はまちのシンボルで心のよりどころとなった。日本の城を、国を挙げて守っていかねければならない」と話した。

シンポジウムの閉会に当たり副実行委員長の水野勝之さんがあいさつ。「この日のシンポジウムをきっかけとし、新宮の宝である歴史を生かしていきたい」と述べた。

（西久保勢津子）